



ねぎし

横浜市立根岸小学校
 学校だより
 5月号 家庭数
 令和5年4月28日
 ホームページはこちら



新しい友達できたかな！

校長 杉山 真理子

新年度が始まり1か月が過ぎました。新しいクラスの仲間や先生との出会い、授業や給食が始まり、1年生を迎える会や学力・学習状況調査など、多くの行事がありました。新しい友達はできたでしょうか。今回初めて同じクラスになった人、知っていたけれど話してみたら同じ趣味があることが分かった、など意外な出会いや発見もあったことでしょう。先日行った「1年生を迎える会」では、可愛らしい1年生が「1年生になったら♪友達100人できるかな～」と元気よく歌を披露してくれました。1年生が歌うと何とも可愛らしく素敵な歌です。先日20代の人との会話の中で、大学時代に一緒に食べる友達が見つからず、トイレでご飯を食べている人がいたという話が出て、数年前に載ったような新聞の記事を思い出しました。

学食に一人用のカウンターを設ける大学が増えている。大学側は「利用の回転を速めるため」などと説明する。しかし、大学4年生の女性(22)は「ああ、ぼっち席ですか」と口にした。「悪気はないけど、みんなそう呼ぶ」という。男性(20)は「他人のぼっちは気にしないけど、自分のぼっちは気になる」と言う。2年生の女性(19)は「テーブルを一人で使うと、他のグループから『あいつがいなきゃ使えるのに』と思われるんじゃないか。ここにいちやいけないと、心が折れそうになる」。一緒にいた友人(19)は「ゼミで一緒になった時、『あの時のぼっちの子』と思われることは避けたい」と苦笑した。

こうした風潮に、ある大学教授(カウンセリング心理学)は、「新しい問題ではなく昔からあった。日本社会には『一緒に行動しなければならぬ』という同調圧力がある。群れていれば安心で、外れるのが怖い」と説明する。「実社会経験が少ない学生には、身近な他者とのつながりが全て。SNSの影響でつながりが薄く広くなり、気遣いする相手が急増した。外される恐怖がより強くなり、一人でいるところを見られたくない」と。ある学生相談室の相談員は、「一昔前は『一匹おおかみは格好いい』とも思われたが、最近は孤独は悪いイメージが付きまとう。深い対人関係を築くのが苦手な若者が多い。対人関係で悩みを持つ学生は、自己肯定感が低く、人の目を気にし、自分の悪いところばかりが見えがち」と言う。「人付き合いをうまくするには、まず自分とうまく付き合うことが大切。それには、自分を見つめる一人の時間も貴重」と助言していると。また、「今の学生には、自分がどういう人間なのか考える時間が不足しているように感じる」と話す。「SNSは情報伝達の便利な道具のはずだが、学生が振り回されている。自分の立ち位置がしっかりしていれば、過剰に反応しなくてすむ。自分を見つめるために孤独は決して悪くない」と。

新聞(抜粋)

「友達づくり」について考えさせられる記事でした。学校で過ごした友達との思い出は、一生忘れないことが多いものです。かけがえのない一生の友達も多くできます。友達がいると、悲しみは小さくなり、喜びが大きくなります。友達として大切なことは、相手の気持ちを分かってあげると同時に、失敗したり悪いことをしようとしたときに止めたり、だめなものはだめと言えたりすることです。自己利益のための友人関係は長く続きません。大人は友達のよさを知っていて、ついつい「友達できた？」と友達づくりを強要してしまいがちです。子ども達の中には、自分から声をかけられない子もいます。また、一人の時間を大切にしたい子もいます。友達との関わり方を学ぶ途中の子もいます。学校でも健全な「友達づくり」を見守っていきます。

教育活動も友達と関わる学び方が増えていきます。「Who am I?」。学校は「自分探し」の連続です。自分や他者を大切にしながら、友達とともに成長し、自分はどんな人間かを探せる子どもになってほしいと願っています。今年度から給食も会話を楽しみながら行っています。